

ミカタ

NPO法人24時間みまもり社会を創る会・笑顔

呼吸・脈拍等をロボットが検知
介護離職や孤独死防止をめざす

7月に大阪で開催された第1回全国介護福祉総合フェスティバル。「これはすごい!」と、展示会場でひととき大きな歓声があがったのは、みまもりバイタルロボットのコーナーだ。特に機器等を身につけていなくても、たちどころに呼吸や脈拍数などのバイタルが画面に表示される。高齢者の見守りに力を発揮する本サービスの提供者に話を聞いた。

(撮影＝中野たま)



みまもりバイタルロボット2種
(写真左がベッドタイプ、中央が
ルームタイプ)と、IoT端末(写
真右)



離れていてもロボットが呼吸・脈拍・
体動を検知し、PCに波形表示する

利用者の行動を制限しない
非接触型が最大の特徴

「みまもりバイタルロボット」による独自の見守りサービスを提供するのは、NPO法人「24時間みまもり社会を創る会・笑顔」。このロボットを普及させることで、介護者のさまざまな負担を減らし介護離職を防止したり、利用対象者の孤独死をなくすことを狙っている。

自らも介護施設での勤務経験があるという同会の近藤芳樹理事長は、「在宅で介護する家族へのサポート、施設で働く職員へのサポートはまだまだ不足しています。誰もが安心して生活できる環境づくりに我々も貢献したいとい

う思いです。そのために、みまもりバイタルロボットを普及させた」と語る。

部屋の一角にロボットとインターネットに接続できるIoT端末を取りつけることで、このロボットを利用できる。ロボットがセンサーにより自動的に利用者の呼吸数、脈拍、体動を24時間検知し、異常を検知すれば、予め設定された相手(家族や職員など)にメールで連絡する仕組みだ。データはIoT端末からインターネットを通じてクラウドサーバに送られる。

最大の特徴は、コードやセンサーなどを利用者に取りつける必要のない非接触型であることである。ロボットをベッドの下や部屋の一角に設置するだけでよく、高



左から、塚本慎治理事、近藤芳樹理事長、近藤昭久専務理事、羽階奈津子理事

【法人概要】

NPO法人24時間みまもり社会を創る会・笑顔
〒540-0036
大阪府大阪市中央区船越町1-3-5 マーキュリー愛見ビル4F
TEL:06-6948-6988 FAX:06-6948-6941
<http://www.egao24h.com/>



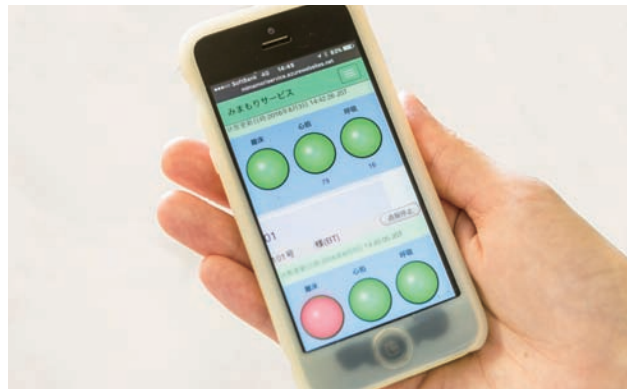
ここが **味方!**

測定データは30日間保持 看取り状況の説明や 虐待の検知にも活用



みまもりバイタルロボットが検知する呼吸・脈拍・体動データは、10秒ごとに検知したものを30日間保持している。クラウドサーバを操作し、必要なデータをいつでも確認できる仕様だ。たとえば、看取り時の説明を家族に求められたときや、虐待が疑われるケースでバイタル状況を確認することも可能であり、このデータを活用することで虐待防止にも効果が期待される。

介護事業所からの問い合わせが増加しているとのことで、今後の動きに注目していきたい。



クラウドサーバを使用することで、勤務先や外出中でも対象者のバイタル値をスマホやPCからリアルタイムで確認することが可能

NPO法人24時間みまもり社会を創る会・笑顔の協賛パートナー企業

株式会社マリン	東京都文京区	代表取締役 三ツ木 貴理	オフィスコーヒー、レンタルマット業
株式会社プラザリンク	大阪市中央区	代表取締役 瀧川 光司	保険代理店
株式会社PPFパートナーズ	大阪市中央区	代表取締役 岡田 和人	各種オフィス機器販売、オフィスインフラ構築サービス
有限会社ジャストオン	大阪市浪速区	代表取締役 浦川 佳代子	LED機器販売・商業施設設備メンテナンス
美家古すし	大阪市中央区	代表 田井 克典	飲食業
株式会社アイクリエイト	大阪府吹田市	代表取締役 高見 静子	ビルメンテナンス

※協賛パートナー企業を募集中

高齢者施設から一般の住宅まですぐに利用できる。利用者が機器類を身につけなくてもよいので、煩わしい思いをすることもなく、生活行為が制限されることもない。トイレの利用時などバイタルを検知できない時間帯も発生するが、事前に利用者の生活をアセスメントし、適正な判定時間を設定しておくことで、その時間を超えた場合にメールを発信するよう調整を行うことができる。

呼吸が苦しい、脈拍が多い、身体が思うように動かないなどの異常を高齢者が感じても、高齢者自ら異常を伝えるのが難しいケースも少なくないが、このシステムではそうした心配もなくなる。異常の感知をロボットにより自動化した画期的システムと言える。

システムの設置を担当する塚本慎治理事は、「住宅型サービスに導入している軽度者に導入したケースでは、お元気なので行動範囲が広いため、判定時間を長く設定しました。また、デイサービスを利用する方には、デイ利用時はスイッチを切っていたいただき、自宅に戻ってきたら人感センサーで自動的にスイッチが入るようにする

など、ライフスタイルに合わせる工夫もしています」と説明する。

みまもりロボット導入で 他の事業所と差別化

みまもりバイタルロボットをもっと多くの人に知ってもらいたいと、「JR京橋駅前で、地域の方に直接PRする活動を続けています」と、羽階奈津子理事は語る。区民だよりや市のコミュニティ誌を通じてPRするほか、サポーター企業を募り、みまもりバイタルロボットの周知や活動資金の協力も得ているという。導入費用はロボットとIoT端末1セットレンタルで月額4800円（税別、別途工事費が必要）。システム自体が高額なため、預かり金として6万円を預かる（3年後に返金）。

理事長の父親でもある近藤昭久専務理事は、「施設のみまもりバイタルロボットを導入することは、職員の負担軽減はもちろん、他の事業所さんとの差別化にもつながります。コストの問題で一度に全室に導入するのが難しい場合は、特に注意が必要な方の居室を中心に導入する提案も行っています」と、普及に向けて意欲を燃やす。